

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 柔道整復師学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-------------|-----------------|--|------------------------------|---------------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 基礎柔道整復学・各論Ⅲ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 第2校舎201 |
| 担 当 教 員 | 仲村 剛 | 実務経験と その関連資格 | 専科教員(平成20年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成24年)、鍼灸接骨院勤務(平成12年～平成26年:接骨院業務) | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 各関節の解剖学的構造を理解した後に、各関節の脱臼発生についてを学びます。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 期末試験評価:100% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 柔道整復学理論編 改訂第7版(南江堂) 柔道整復学実技編 改訂第2版(南江堂) パソコン(パワーポイント・スピーカー)、各種計測機器など 【参考図書】グレイ解剖学, 身体運動の機能解剖, 標準整形外科 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 柔道整復理論の教科書をベースにして、実技編および解剖学の教科書も参考にしながら、人体の構造を理解すると同時に脱臼のメカニズムを学習する。また各種動画等による受傷場面の確認も有用である。次回講義までの課題がある場合もある。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 柔道整復師の業務範囲である脱臼の整復において発生頻度が高く、また臨床現場でも遭遇する機会の多い範囲です。解剖学的構造をしっかり理解することから始め、整復から固定までを理解しましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 頭部・体幹の解剖学構造を理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 頭頸部、体幹部の解剖学的構造 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 頭部・顔面部の骨折について理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 頭部、顔面部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 頸椎の骨折について理解する(1) | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 頸椎の骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 頸椎の骨折について理解する(2) | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 頸椎の骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 胸椎の骨折について理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 胸椎の骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|------------------------------------|--------------------------|---------------------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 腰椎の骨折について理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 腰椎の骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 胸部の骨折について理解する(1) | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 胸部の骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 胸部の骨折について理解する(2) | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 胸椎の骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 顎関節脱臼について理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 顎関節脱臼についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 頸椎脱臼について理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 頸椎脱臼についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 胸腰椎の脱臼について理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 胸腰椎の脱臼についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 鎖骨の脱臼について理解する | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 鎖骨部の脱臼についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肩関節脱臼について理解する(1) | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肩関節脱臼についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肩関節脱臼について理解する(2) | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肩関節脱臼についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | まとめ | 柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂)配布資料 | 履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 後期講義のまとめを行い再復習し各脱臼を理解する。 | | |